

令和3年 上半期
火災・救急統計

松山市消防局

目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別の件数と出火率	4
8	地区別件数の推移	5
9	住宅用火災警報器の奏功事例	6
第2	救急の概況	7
1	救急出動件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災

第1 火災の概況

松山市での令和3年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数60件、損害額1億1,773万9千円、死者2人、負傷者28人となっています。

1 火災件数

令和3年上半期（1月～6月）の出火件数は60件で、前年同期（49件）と比べて11件増加しています。

（▲は減少）

		令和3年	令和2年	前年同期比
総火災件数		60	49	11
種 別	建物火災 (住宅火災)	40 (25)	38 (27)	2 ▲ (2)
	車両火災	5	2	3
	林野火災	3	2	1
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	12	7	5

※その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

2 火災による損害

令和3年上半期（1月～6月）の火災による損害の状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

		令和3年	令和2年	前年同期比
焼 損 棟 数	合計	62	61	1
	全焼	13	13	0
	半焼	4	5	▲ 1
	部分焼	12	13	▲ 1
	ぼや	33	30	3
り災世帯数		47	45	2
建物焼損床面積 (㎡)		2,066	1,405	661
建物焼損表面積 (㎡)		210	329	▲ 119
林野焼損面積 (a)		6	6	0
損害額 (千円)		117,739	102,808	14,931

3 死傷者数

令和3年上半期（1月～6月）の火災による死者は2人で、前年同期（6人）と比べて4人減少しています。また、火災による負傷者は28人で、前年同期（10人）と比べて18人増加しています。

（▲は減少）

		令和3年	令和2年	前年同期比
死者		2	6	▲ 4
負傷者		28	10	18

4 出火原因別の火災発生状況

令和3年上半期(1月～6月)の火災60件を出火原因別にみますと、「たき火」が12件(20.0%)、「たばこ」、「こんろ」が6件(10.0%)となっています。

また、「放火火災」は5件で全体の8.3%を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

(▲は減少)

	令和3年	令和2年	前年同期比
たき火	12	2	10
たばこ	6	4	2
こんろ	6	4	2
ストーブ	5	3	2
電灯・電話等の配線	4	8	▲4
放火の疑い	3	1	2
配線器具	2	4	▲2
放火	2	2	0
電気機器	2	0	2
灯火	2	0	2
火あそび	1	1	0
焼却炉	1	0	1
煙突・煙道	1	0	1
電気装置	1	0	1
内燃機関	1	0	1
マッチ・ライター	1	0	1
火入れ	0	1	▲1
その他	4	8	▲4
不明・調査中	6	11	▲5
合計	60	49	11

5 損害額

令和3年上半期（1月～6月）の火災による損害額は1億1,773万9千円で、前年同期（1億280万8千円）と比べて1,493万1千円増加しています。

（▲は減少）

	令和3年 (千円)	令和2年 (千円)	前年同期比 (千円)
損害額	117,739	102,808	14,931
建物	113,578	100,318	13,260
車両	3,975	1,904	2,071
船舶	0	0	0
林野	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	186	586	▲ 400
爆発	0	0	0

6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）の火災状況は次表のとおりです。

	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平均
火災件数 (件)	60	49	72	61	82	64.8
焼損棟数 (棟)	62	61	73	75	63	66.8
死者 (人)	2	6	5	5	4	4.4
負傷者 (人)	28	10	10	14	19	16.2
り災世帯数 (世帯)	47	45	51	39	49	46.2
り災人員 (人)	87	98	119	84	80	93.6
損害額 (千円)	117,739	102,808	64,162	64,753	36,511	77,195

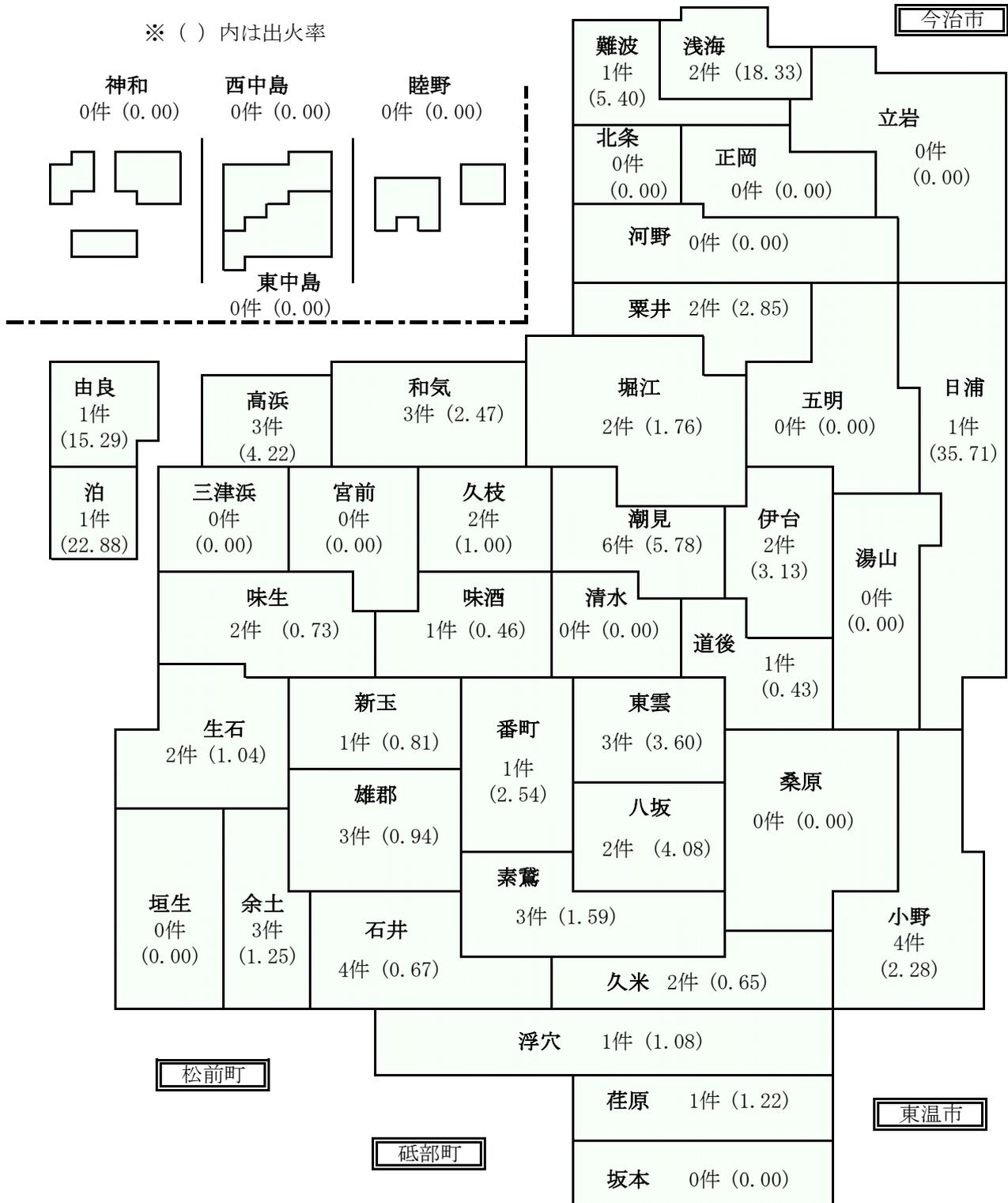
7 地区別の件数と出火率

火災件数を地区別にみると、潮見が6件で最も多く、次いで小野と石井が4件となっています。

出火率を地区別にみると（松山市全体1.18）、日浦が35.71で最も高く、次いで泊が22.88、浅海が18.33となっています。

※出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいいます。

（人口は、令和3年1月1日現在の住民基本台帳による）



8 地区別件数の推移

	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
番町	1	1	2	3	2
東雲	3	2	2	1	2
八坂	2	1	1	1	3
素鷲	3	3	3	1	6
雄郡	3	4	1	2	6
新玉	1	1	1	3	3
味酒	1	1	1	2	3
清水	0	3	5	4	7
桑原	0	2	4	0	1
道後	1	2	2	5	6
味生	2	2	4	2	1
生石	2	0	7	3	3
垣生	0	1	0	1	3
宮前	0	1	2	2	0
三津浜	0	1	0	0	0
高浜	3	0	2	4	0
久枝	2	1	4	2	1
潮見	6	2	2	1	1
和気	3	1	3	2	3
堀江	2	0	4	1	3
余土	3	2	2	1	1
由良	1	0	0	0	0
泊	1	0	0	1	1
久米	2	1	1	1	1
湯山	0	2	0	0	2
日浦	1	0	0	0	0
伊台	2	0	0	1	0
五明	0	2	0	0	0
小野	4	1	1	4	2
浮穴	1	2	1	1	3
石井	4	5	5	6	2
荏原	1	2	3	1	6
坂本	0	0	1	1	1
浅海	2	1	0	0	2
立岩	0	0	2	0	1
難波	1	1	2	1	1
正岡	0	0	2	0	1
北条	0	0	0	0	1
河野	0	0	0	0	0
粟井	2	1	1	3	2
睦野	0	0	0	0	0
東中島	0	0	1	0	0
西中島	0	0	0	0	0
神和	0	0	0	0	1
合計	60	49	72	61	82

※松山市基準地区（44地区）

9 住宅用火災警報器の奏功事例（令和3年上半期）

【事例1】近隣住民が発見し、早期の通報につながった事例

共同住宅の一室で、火元住民が外出中に火災が発生した。近隣住民が警報音に気づき、火元の換気口から煙が出ているのを発見したため119番通報を行った。

【事例2】近隣住民が発見し、火災を未然に防いだ事例①

共同住宅の一室で、火元住民が調理中のフライパンを放置、煙が発生した。近隣住民が警報音と煙のにおいに気づき、火元住民に声掛けをし、火災を未然に防いだ。

【事例3】近隣住民が発見し、火災を未然に防いだ事例②

共同住宅の一室で、火元住民が調理中に外出、鍋が焦げ煙が発生した。近隣住民が警報音に気づき、こんろの火を消し、火災を未然に防いだ。

【事例4】火元住民が早期に火災に気づき、初期消火に成功した事例

共同住宅の一室で、火元住民が調理中に睡眠、調理中の鍋から出火した。火元住民が警報音に気づき目を覚まし、初期消火を実施、消火に成功した。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。また、初期消火には粉末消火器が有効です。日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

住宅用火災警報器は、古くなると電池切れや、故障する可能性があります。日頃から正常に作動するか確認し、10年を目安に交換を検討してください。

作動確認や設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

救 急

第2 救急の概況

松山市の令和3年上半期（1～6月）の救急出動件数は11,637件、搬送人員は10,739人で、前年同期と比較し出動件数・搬送人員ともに減少しています。

これは、一日平均64.3件、約22分24秒に1回の割合で救急車が出動し、市民約47人に1人の割合で搬送されたこととなります。

1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで、出動件数・搬送人員とも全体の約95～97%を占めています。

（▲は減少）

区分	単位	令和3年	構成比(%)	令和2年	構成比(%)	増減
出動件数	件	11,637	100.0	11,695	100.0	▲ 58
内訳	火災	63	0.5	43	0.4	20
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	10	0.1	9	0.1	1
	交通	857	7.4	931	8.0	▲ 74
	労災	82	0.7	82	0.7	0
	運動	77	0.7	35	0.3	42
	一般	1,660	14.3	1,714	14.7	▲ 54
	加害	44	0.4	51	0.4	▲ 7
	自損	103	0.9	111	0.9	▲ 8
	急病	7,008	60.2	7,151	61.1	▲ 143
	転院	1,537	13.2	1,383	11.8	154
	その他	196	1.7	185	1.6	11
搬送件数	件	10,654	-	10,731	-	▲ 77
搬送人員	人	10,739	100.0	10,799	100.0	▲ 60
内訳	火災	26	0.2	9	0.1	17
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	4	0.0	4	0.0	0
	交通	811	7.6	905	8.4	▲ 94
	労災	81	0.8	79	0.7	2
	運動	80	0.7	36	0.3	44
	一般	1,573	14.6	1,624	15.0	▲ 51
	加害	42	0.4	40	0.4	2
	自損	66	0.6	87	0.8	▲ 21
	急病	6,528	60.8	6,637	61.5	▲ 109
	転院	1,528	14.2	1,378	12.8	150
	その他	0	0.0	0	0.0	0
出動平均(1日)	件	64.3		64.3		
出動間隔		22分24秒		22分25秒		

（注1）出動平均については、前年比1日あたり同じです。

（注2）出動間隔については、前年比1秒短くなっています。

（注3）構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関9,834人(91.6%)、その他の医療機関905人(8.4%)、その他の場所0人となっており、救急医療機関へ搬送する割合が多いです。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,023	784	1,493	1,534	9,834
その他の医療機関	505	27	80	293	905
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	6,528	811	1,573	1,827	10,739

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(注2) 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関。

3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡136人(1.3%)、重症492人(4.6%)、中等症4,384人(40.8%)、軽症5,727人(53.3%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	0	0	0	5	0	0	12	0	6	110	3	136
重症	1	0	0	14	3	0	44	1	7	284	138	492
中等症	1	0	0	100	26	18	498	2	12	2,361	1,366	4,384
軽症	24	0	4	692	52	62	1,019	39	41	3,773	21	5,727
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	26	0	4	811	81	80	1,573	42	66	6,528	1,528	10,739

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(傷病程度)

死亡 初診時において、死亡が確認されたもの

重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

4 応急処置実施状況

救急救命士が行える救命処置（ラリングアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、エピペン投与、ブドウ糖投与）の件数は177件（前年254件）となっています。

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
応急処置	応急処置対象人員	6,524	811	1,568	1,801	10,704
	止血	20	21	106	28	175
	固定	28	125	151	40	344
	人工呼吸	16	0	1	5	22
	心マッサージ	13	0	3	1	17
Ⅱ	うち自動	7	0	1	1	9
	心肺蘇生	194	5	23	14	236
Ⅱ	うち自動	23	0	4	0	27
	酸素吸入	1,157	10	68	473	1,708
	気道確保	275	7	32	23	337
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	1	0	1	0	2
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	2	0	2	0	4
救	うちラリングアルマスク等	52	1	1	1	55
救	うち気管挿管	1	0	2	0	3
	保温	248	18	56	75	397
	被覆	46	231	393	75	745
Ⅱ	在宅療法継続	43	0	4	1	48
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	16	0	1	0	17
	静脈路確保	39	0	2	3	44
救	うち心肺停止前	10	0	0	0	10
	うち心肺停止後	29	0	2	3	34
救	薬剤投与	3	0	1	0	4
Ⅱ	血圧測定	6,121	797	1,466	1,705	10,089
Ⅱ	聴診器	787	25	97	89	998
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	6,301	805	1,512	1,766	10,384
Ⅱ	心電図	1,714	13	70	250	2,047
救	血糖測定	46	1	0	0	47
救	エピペン投与	0	0	0	0	0
救	ブドウ糖投与	7	0	0	0	7
	その他	6,029	761	1,461	1,634	9,885
合計		23,103	2,819	5,447	6,182	37,551
拡大された応急処置等		15,163	1,642	3,164	3,816	23,785
（うち救命処置）		164	2	7	4	177

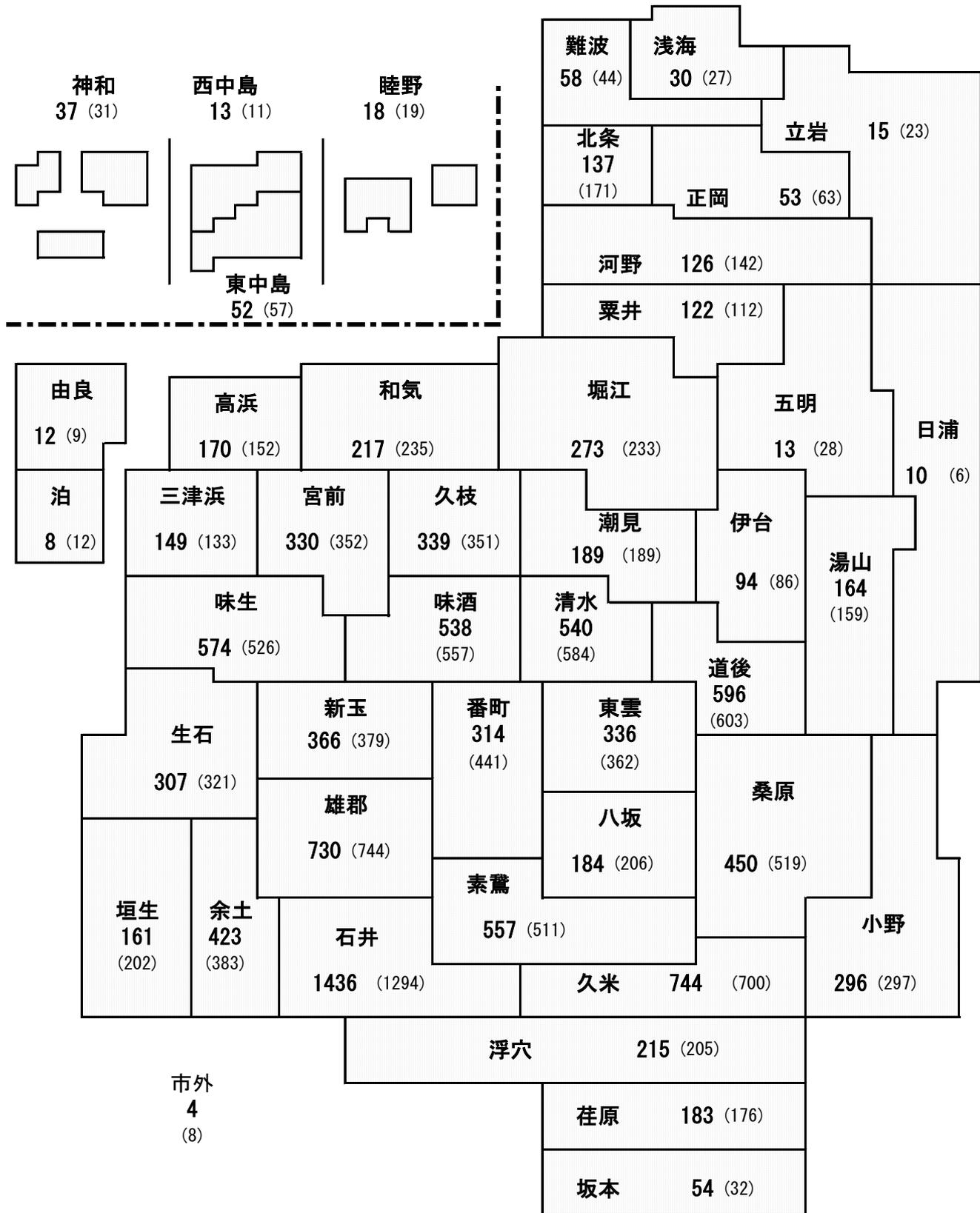
(注1)「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置

(注2)「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置

5 地区別救急発生状況

出動件数 11,637件 (前年 11,695件)

() 内は前年同期の発生状況



令和3年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp